

輪爲めに轉覆す。若し夫れ三伏の大暑、赫々たる赤日一たび此の磧原を照さんか、大小の石礫は爲めに灼けて溶けんと欲し、嫋々たる長風は爲めに熱して火の如く將さに眉を焼き肉を爛らさんとす、羽扇の風も此の暑氣を防ぐに足らず、行囊の水も亦清涼を取るに由なし。大紅蓮の焦熱地獄も亦之れに喩ふるに足らず、行客の眼爲めに眩して卒倒し、牛馬の喘急にして爲めに斃死するに至る。

卑濕の地

或は土地卑濕にして蘆葦叢生し、蓊密鬱茂、遠く相連る處は、廣茫際なく、恰も大密林の觀を成し、之を跋涉し能はざるのみならず、些も透視を許さざるなり。此の如き惡地は能く猛獸をして棲息せしめ、虻蠅をして蕃殖せしむ、之れを横きる道路は恰も大墜道を行き、長狹隘を進むに均しく、萬一猛獸の襲來に遭遇せんか、前に嶋を負ふて長嘯する猛虎を防げば、後に餓狼の爪を磨き牙を鳴らす有り、左右は即ち沼淖不測の地なれば、進退谷まりて非命に斃るゝ者多し、故に此の地帯を通過するには、多人數隊伍を結び、單縱陣を成し、晝は大聲呼應、夜は炬火を點して過ぐるを常とす。

鹹土帶

或は鹹土の細沙と混じ、或は全く鹹土のみの地あり。鹹土は其質鬆脆にして、鹽